

どこがちがう？ 慣用句の直し①

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～気もちの 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- ・問1～4は 下線が 引いて ある。問5からは、気もちに 合わない 慣用句の ところに 自分で 下線を 引こう。
- ・場めん に 合う 慣用句に 直して、文ぜんぶを 横線に 書こう。ことばの おわりは かえて よい。
- ・問1～8は 下の 箱から えらぼう。箱の ない 問は、場めん に 合えば どの 慣用句でも よい。
- ・直さなくて よい 文は、下線を 引かずに、横線の 上に 『なおさない』と 書こう。

- (1) 場めん 兄は 大会で 優勝して、メダルを かけて とくいそうに 立った。

兄は 肩身が狭かった。

→ _____

- (2) 場めん 授業中に 先生を 『お母さん』と まちがえて 呼んで しまい、みんなに わらわれた。

わたしは 鼻が高かった。

→ _____

- (3) 場めん 夏休みの 宿題が、やっと ぜんぶ 終わった。

ぼくは 頭に來た。

→ _____

- (4) 場めん 楽しみに して いた 遠足が、雨で 中止に なった。

みんなは 胸がはずんだ。

→ _____

- (5) 場めん まだ ぶりだと 思って いた 妹が、はじめて 自転車に のれた。

家族は 腹を立てた。

→ _____

- (6) 場めん 弟が まだ 帰って こない。事故に あって いないか、心配で たまらない。

ぼくは 気が長く 弟の 帰りを 待って いた。

→ _____

- (7) 場めん 弟が ぼくのおもちゃを わざと こわした。

ぼくは 舌を巻いて 弟に どなった。

→ _____

- (8) 場めん あしたは サッカーの 大事な 試合だ。早く プレーを したくて たまらない。

ぼくは 気が重かった。

→ _____

- (9) 場めん 友だちは 毎朝 早く 来て、教室の 花に 水を やって いる。

わたしは 頭が下がる 思いだった。

→ _____

- (10) 場めん 合唱コンクールで、クラスの 歌声を 聞いて、思わず 泣きそうに なった。

わたしは 目を白黒させた。

→ _____

ことばの 箱(問1～8で つかえます。つかわない ことばも あります)

かた
肩を落とす

目を三角にする

胸を張る

耳が痛い

かた
肩の荷が下りる

気が気でない

虫がいい

顔から火が出る

うで
腕が鳴る

目を丸くする



どこがちがう？ 慣用句の直し①【こたえ】

場めん に 合わない 慣用句を 直そう～気もちの 場めん～

なまえ _____

ひづけ _____

- (1) 場めん 兄は 大会で 優勝して、メダルを かけて とくいそうに 立った。

兄は 肩身が狭かった。

→ 兄は 胸を張った。

○ 胸を張る=じしんが あって 堂々とする

× 肩身が狭い=はずかしくて 引け目を感じる

- (2) 場めん 授業中に 先生を 『お母さん』と まちがえて 呼んで しまい、みんなに わらわれた。

わたしは 鼻が高かった。

→ わたしは 顔から火が出た。

○ 顔から火が出る=はずかしくて 顔が 赤く なる

× 鼻が高い=ほこらしくて じまんに 思う

- (3) 場めん 夏休みの 宿題が、やっと ぜんぶ 終わった。

ぼくは 頭にきた。

→ ぼくは 肩の荷が下りた。

○ 肩の荷が下りる=せきになが なくなって ほっと する

× 頭に来る=はらが 立って がまん できない

- (4) 場めん 楽しみに して いた 遠足が、雨で 中止に なった。

みんなは 胸がはずんだ。

→ みんなは 肩を落とした。

○ 肩を落とす=がっかりして 元気を なくす

× 胸がはずむ=うれしくて わくわくする

- (5) 場めん まだ おりだと 思って いた 妹が、はじめて 自転車に のれた。

家族は 腹を立てた。

→ 家族は 目を丸くした。

○ 目を丸くする=おどろいて 目を 大きく ひらく

× 腹を立てる=おこる

- (6) 場めん 弟が まだ 帰って こない。事故に あって いないか、心配で たまらない。

ぼくは 気が長く 弟の 帰りを 待って いた。

→ ぼくは 気が気でなく 弟の 帰りを 待って いた。

○ 気が気でない=しんぱいで 落ち着かない

× 気が長い=のんびり していて ゆっくり 待てる

- (7) 場めん 弟が ぼくのおもちゃを わざと こわした。

ぼくは 舌を巻いて 弟に どなった。

→ ぼくは 目を三角にして 弟に どなった。

○ 目を三角にする=おこって こわい 目になる

× 舌を巻く=すごさに 感心する

- (8) 場めん あしたは サッカーの 大事な 試合だ。早く プレーを したくて たまらない。

ぼくは 気が重かった。

→ ぼくは 腕が鳴った。

○ 腕が鳴る=力を 見せたくて うずうずする

× 気が重い=ゆううつで 気が すすまない

- (9) 場めん 友だちは 毎朝 早く 来て、教室の 花に 水を やって いる。

わたしは 頭が下がる 思いだった。

→ 直さなくて よい

○ 頭が下がる=りっぱな 行いに 感心して 尊敬する

場めん に 合っ て いるので 直さない。

- (10) 場めん 合唱コンクールで、クラスの 歌声を 聞いて、思わず 泣きそうに なった。

わたしは 目を白黒させた。

→ わたしは 胸が熱くなった。

○ 胸が熱くなる=感どうして 胸が いっぱいになる

× 目を白黒させる=びっくりして あわてる

○の つけ方

こたえは 一れいです。場めん に 合う 意味の 慣用句なら、ここに ない 慣用句でも、おわりの かたち が ちがっても ○。

□ 下線を 引けた □ 場めん に 合う 慣用句に 直せた □ 直さなくて よい 文(問9)は『なおさない』と 書けた